

指導を受けることが望ましい。

7. 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害する恐れがあ

るので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意すること。

アワード®フロアブル

イマゾスルフロン・ダイムロン・ピリブチカルブ水和剤

対象作物：移植水稻

成分・作用特性：本剤は、武田薬品工業株式会社が創製した、橋頭位に窒素原子を有する縮合複素環を持つユニークなスルホニル尿素系除草剤イマゾスルフロン（1-（2-クロロイミダゾ〔1,2-a〕ピリジン-3-イルスルホニル）-3-（4,6-ジメトキシピリミジン-2-イル）尿素）を1.7%，株式会社エス・ディー・エス バイオテックが開発したダイムロンを27.5%および大日本インキ化学工業株式会社の製品であるピリブチカルブを12.0%含有する白色水和性粘稠懸濁液体（フロアブル）の水稻用除草剤である。

イマゾスルフロンは、雑草の茎葉部、茎葉基部、根部から速やかに吸収され、分岐鎖アミノ酸（バリン、イソロイシン）の生合成に関与するアセトラクテート合成酵素の作用を阻害する。その結果、雑草は細胞分裂が妨げられ、生育を停止し、次第に退色し枯死する。水稻には吸収されにくい、吸収されても速やかに不活性物質に代謝されるため、水稻-雑草間に高い選択性を示す。

ダイムロンは、雑草の根部から吸収され、主として根の細胞分裂・細胞伸長阻害作用により、雑草の発芽時～発生始期の発根抑制、根伸長阻害および生育抑制によって枯殺する。

（取扱メーカー） 武田薬品工業株式会社

ピリブチカルブは、雑草の根部、幼芽部、茎葉基部から吸収され、雑草根部及び茎葉部の伸長を阻害し枯殺する。雑草は生育を停止した後、次第に茎葉部が赤化し、さらに黄化から褐変枯死に至る。

特 長：

1. 省力的散布が可能

本剤は、散布器具を使わず畦畔からボトルのまま散布することができ、水田に入らず、ひとりでも散布が可能である。また、田植機に装着する散布器具を利用すると田植作業と除草剤散布作業を同時に行うことも可能である。

2. 優れた水中拡散性

本剤は、優れた水中拡散性があるので、散布後田面水中を速やかに均一に拡散し、安定した除草効果を発揮する。

3. 広範囲の雑草に卓効

本剤は、ノビエをはじめとする水田一年生雑草から、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ、ヒルムシロ、セリ等の多年生雑草、またクログワイ、オモダカ、シズイ、エゾノサヤヌカグサ等の難防除雑草、アオミドロ、表層はく離にも高い効果を示す。

4. 広い処理適期幅

移植直後からノビエの1.5葉期まで、いずれの時期の使用でも高い効果を示す。

5. 長い抑草期間

抑草期間が長く、稲作期間を通じて十分な除草効果が得られる。

6. 水稻に対する高い安全性

いずれの有効成分も水稻-雑草間に優れた選択性を有し、通常的使用方法では薬害は発生せず全国的に安心して使用できる。

7. 人畜・魚介類・有用生物に高い安全性

人畜毒性および魚毒性は低く、有用生物にも影響がなく、安全性が非常に高い除草剤である。

毒 性：

人畜毒性：製剤

投与経過	動物種及び性	LD ₅₀ 値
経 口	ラット(♂, ♀)	> 5,000mg/kg
	マウス(♂, ♀)	> 5,000mg/kg
経 皮	ラット(♂, ♀)	> 2,000mg/kg

適用雑草及び使用方法：

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	10アール当り使用量	総使用回数*	使用方法	適用地帯
移植水稻	水田一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ(北海道、東北、北陸)、オモダカ(関東・東山・東海)、ヒルムシロ(北海道、東北、関東・東山・東海)、セリ(九州を除く)、アオミドロ・藻類による表層はく離(北海道)	移植直後～移植後10日〔ノビエの1.5葉期まで〕	壤土～埴土 〔減水深2cm／日以下。〕	500 ml	本剤のみ：1回 イマゾスルフロン：2回以内 ダイムロン：2回以内 ピリブチカルブ：1回	原液湛水散布	北海道、東北、北陸、関東・東山・東海の普通期栽培地帯
			砂壤土～埴土 〔減水深1.5cm／日以下。〕				近畿・中国・四国の普通期栽培地帯
			埴壤土～埴土 〔減水深1cm／日以下。〕				近畿・中国・四国の早期栽培地帯
			壤土～埴土 〔減水深1.5cm／日以下。〕				九州の普通期栽培地帯

*印は収穫物への残留回避のため、本剤及びその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

魚 毒 性：製剤

魚 種	試験薬剤	LC ₅₀ 値
マゴイ	製 剤	> 100mg/l (48 hr)
タマミジンコ	製 剤	> 200mg/l (3 hr)

使用方法：

移植直後からノビエの1.5葉期までに10アール当り 500 ml を原液のまま湛水状態で均一に散布する。

使用上の注意：

1. 使用前には容器を軽く振ること。
2. 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、田植え同時期からノビエの1.5葉期までに時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にブレが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。

ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカは2葉期まで、オモダカは発生始まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前

から再生始まで、アオミドロ、表層はく離は発生前までが本剤の散布適期である。

3. 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平化作業及び植付けはていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行うこと。
4. 散布に当っては、水の出入を止めて田面に原液のまま均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5 cm）を保ち、落水、かけ流しはしないこと。
5. 以下のような条件下では薬害が発生する恐れがあるので使用をさけること。

- ① 砂質土壌の水田及び漏水の大きな水田（減水深が2 cm/日以上）。

- ② 軟弱な苗を移植した水田。

- ③ 極端な浅植の水田。

6. 梅雨期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用を避けること。
7. 活着遅延を生ずるような異常低温が予測されるときは、初期生育の抑制などが生ずる恐れがあるので、このような条件下での使用に際しては、県の防除指針に基づき関係機関の指導を受けることが望ましい。
8. 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害する恐れがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分注意すること。

植 調 協 会 だ よ り

◎ 人 事 異 動

平成6年3月31日付

退職 東海支部長	太田 孝
退職 研究所 技師	宮下 勇作
退職 十勝試験地 嘱託	須賀 忠夫
退職 十勝試験地 嘱託	池田 正昭
退職 秋田試験地 嘱託	佐藤 陽一
退職 長野第一試験地 嘱託	宮島 吉彦
退職 長野第一試験地 嘱託	峰村 寛一
退職 長野第二試験地 嘱託	堀 親郎

退職 福岡第一試験地 嘱託 水城 義人

平成6年4月1日付

委嘱 東海支部長	片岡 一男
任 福岡第一試験地 技師	西田 勉
任 上川試験地 嘱託	杉村 幸一
任 十勝試験地 嘱託	小川 武
任 長野試験地 嘱託	但馬 勇
任 熊本城南試験地 嘱託	松本 室士
命 研究所第二研究室長代理	土田 邦夫
命 研究所主査研究員	岡本 浩一郎
命 研究所主査	遠山 政夫
命 研究所北海道試験地	水稻 科長
	田中 和吉

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都台東区台東1丁目26番6号
電話 東京(03)3832-4188(代)

平成6年4月発行

植調第28巻第1号

定価412円(送料250円)

(本体400円,消費税12円)

編集人 日本植物調節剤研究協会 会長 千坂 英雄
発行人 植調編集印刷事務所 広田 伸七

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会
発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京(03)3833-1821番(代)
印刷所 新 成 印 刷 関